



市民病院 ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

「救急」って なんだろう

はじめまして。救急看護認定看護師として市民病院で活動している江坂です。

家でごはんを食べながらこの記事を読んでいるとき、図書館などの公共施設に訪れているとき、おやつを寝転びながら食べているとき。その周りで誰かが突然倒れたり、大きなけがを負えば、一転してその場は「救急の現場」になってしまいます。このように「救急」は場所を問わず、いつでもどこでも起こる可能性があります。

私自身、いつでも「救急の現場」に備えて活動できるよう、患者さんの小さな変化がないかを気にかけてながら日々看護活動をしています。

今後は病院内だけでなく、地域の皆さんに向けても、心臓マッサージや応急処置の方法など、救急に関する知識や技術をお届けしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

ちなみに、心臓マッサージは乳首と乳首を線で結んだちょうど真ん中あたりを、大人であれば5～6cm沈むように、100～120回／分のリズムで押します。アンパンマンのオープニングソングのリズムと一緒になんですよ。



碧南の歴史へのいざない

問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

No.37 碧南市史料第65集 新民序塾書 郡達綴込②

北海道から届いた水害救済のお願い、加藤平五郎も開拓地で被災

前回に続き「碧南市史料第65集 新民序塾書 郡達綴込」（平成20年3月発行・非売品）から、今回は「郡達綴込」（明治31年）を紹介します。

これは、碧海郡役所から西端村役場宛に出された通達（文書）を、西端村役場が時系列につづった冊子です。そのなかから「北海道水害被害者救済義捐ノ件ニ付配慮依頼」を取り上げます。



△郡達綴込（原本）

明治31年（1898年）9月6日、北海道を豪雨が襲い、川がはん濫しました。その被害は甚大で、「（略）鉄道破壊シ、電線断絶シ、市街村落田圃悉く浸水シ、山岳崩レ、家屋流亡（略）」という事態となり、救援・支援をこの地域にも要請したという内容です。北海道の水害救済委員会が出し、碧海郡役所を経て、同年10月に西端村役場に届きました。

No. 20で紹介した加藤平五郎は、北海道夕張郡由仁町の開拓途中でこれに被災しました。築き上げた土地も、鉄道も流され、小作人も離散するなど大変な思いをしました。その後、彼は見事に開拓を成し遂げるのですが、この文章は当時の状況の一端が分かる一史料です。